

# 恵みと真理のニュース



2019 年 12 月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

**青年の時、主の事に優先順位を置いて生活するように私を変化させてくださった神様の大きい恵みと愛に感謝を捧げます。**

私はドンタン聖殿教会学校の幼稚部と青年奉仕宣教会で我が教会を仕えている青年です。小学校5年生の時、恵と真理教会に通い信仰生活をはじめました。聖歌隊員として奉仕しながら幼いころ賛美する喜びと礼拝のため献身するやりがいを感じ楽しく教会生活をしました。

中学生になった後からはアトピー症状が悪化されました。病院に通い様々な薬を飲んでも効果がなかったです。症状が酷い時にはかゆくてぐっすり寝れないし、洗うとき、傷がある部分を水をあてるととても苦痛でした。ちょうど思春期と重なってストレスが酷かったです。そうしながら性格も変わって人見知りをしてうつにもなりました。私がなぜこのような苦痛を受けなければならないのか、神様を恨む時もありました。自ら心を閉じて教会に行きたくなかったです。中高等部の礼拝の代わりに大人と共に大聖殿で一人で礼拝を捧げる時が多かったです。

親が心を尽くして見守ってくださり、教会の多くの方々が私のアトピーの症状がなくなるように神様に祈りました。感謝することは私が高校3年生になってやっとアトピー症状が良くなりました。しかし、私は相変わらず神様に委ねならず神様に感謝しなかったです。大学センター試験を準備しながら信仰生活はもっと疎かになりました。

中高等部の修了礼拝を捧げる日に青年奉仕宣教会で新入生の歓迎会があると連絡を受けました。初めは青年部に入りました。

くなくったです。しかし、小学生の時から一緒に聖歌隊で奉仕した友達が歓迎会に参加すると聞いて私も一緒に行くようになりました。神様は今まで心を閉じていた私の心を真実な友達を送らせて私を青年奉仕宣教会で導いてくださいました。ハレルヤ！その日の集まりで恵みを受けて教会学校の児童部を仕えようと決断して青年の集まりに参加するようになりました。

その年の夏にある青年奉仕宣教会の国内宣教奉仕に参加しました。行く前に教育と訓練と実際に奉仕活動を通して私は教会中心、礼拝中心、御言葉中心の人生がどんな人生なのか知ることになりました。奉仕に行った聖殿の夏聖書学校で他の青年達と共に「私の心のパス」という題目の無言劇をするようになりました。「心の優先順位」の内容でした。私はこの無言劇で一番よく出演するパス運転手の役割をしました。負担が多くて自信もなかったですが、祈りながら熱心に準備しました。神様が助けてくださり、能力を与えてくださって子供たちに教訓をよく伝えて、無事に公演を終えました。

講演を終えて私をパス運転手の役割で建ててくださった神様の御言を知る事が出来ました。今まで私の人生の優先順位は神様ではなかったです。神様に委ねられず私の力と知恵で何かを成し遂げようとしていました。国内宣教奉仕を通して私はこのような事実を深く悟りました。生活の優先順位が変えて思考が変えて性格など多くの事が変化されました。

国内宣教を行ってきた後、熱心に幼稚部の子供達を仕えて青年部ももっと熱心に参席しました。年立変えて、幼稚部と青年奉仕宣教会で委員職分を任されて奉仕するようになりました。当時、私は教会で重い職分を任されるには足りないところが多いと思っていました。それで、「神様はどうして知恵と能力と経験が足りない私にこのような職分を任されたのか」と思いました。そんな中で説教を聞いて感動を受け神様に委ねながら奉仕しました。「私を強めてくださった、私たちの

主キリスト・イエスに感謝しています。主は、私を忠実な者と見なして、奉仕の務めに就かせてくださったからです。」

(テモテ第一1:12) この御言葉を黙想しながら励まされました。御言葉に恵みを受けて神様のお働きを期待して楽しく感謝する心で奉仕するようになりました。

去年の冬、中高等部の修練会で補助教師として参加しました。中高等部の頃、教会奉仕もしなくて修練会も行かなかった私が後輩たちを仕えながら奉仕したのがとても感謝でした。説教を聞き祈り会の時互いのため祈る学生を姿を見て私の中高等部の時を振り替えてみました。「私も大変だったその時に今の学生のように神様に委ねて仰ぐとどれほどよかったですか」とも持ったいくて残念だと思いました。それで悔い改めをして今でも悟らせてくださった神様の愛に感謝しました。そして、中高等部の学生は神様を畏れ委ねながら、神様が下さるビジョンを心に抱いて明るくて肯定的な生活をするように熱心に祈り祝福しました。

教会で職分を任されて献身奉仕しながら祈りに答えてくださる神様の恵みを体験しながら、祈りの大事さとその力を知ることになりました。「何事も思い煩ってはなりません。どんな場合にも、感謝を込めて祈りと願いを献げ、求めているものを神に打ち明けなさい。」(フィリピの信徒への手紙4:6) この御言葉のとおりにもっと神様に委ねて神様に祈り感謝する生活をするようになりました。

血気盛んで高慢に陥りやすい青年の時、クリスチャンらしく、礼拝と主が喜ばれることに優先順位を置いて生活するように私を変化させた神様の大きい恵みと愛に感謝捧げます。与えてくださった職分に感謝し、最善を尽くして献身するように助けてくださった神様に感謝します。私が感じ経験する神様の愛をもっと熱心に伝えます。もっと強く大胆な信仰と知恵と能力を下さるのを祈りながら神様にすべての栄光を捧げます。ハレルヤ！



[信仰コラム]

右にも左にも曲がってはならない

「...あなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲がってはならない...」(ヨシュア記1:5~9)

40年に渡ってイスラエル子孫達を率いたモーセの生涯が終わるとヨシュアがイスラエルの指導者の地位を継承しました。神様がヨシュアに約束と命令の御言葉をくださいました。これを分類すると次のようです。四つの約束があります。一は、「モーセと共にいたように、あなたと共にあるであろう。」二は、「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。」三は、「あなたが生きながらえる日の間、あなたに当たることのできる者は、ひとりもないであろう。」四は、「あなたはこの民に、わたしが彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を獲させなければならない。」そして三つの命令があります。一、「強くあれ。雄々しくあれ。」二、「律法を守り行なえ。」三、「右にも左にも曲がってはならない。」と言われました。その中で「右にも左にも曲がってはならない」という命令に対して調べてみましょう。

神様がヨシュアに命令なされたこの御言葉は中間や中立を意味するものではありません。便宜主義や適当主義の処世術を言うものではありません。これは正道を離れないことを言います。神様の御言葉通りに行いなさいという意味です。聖書の御言葉は信仰生活の原則です。今日大衆迎合主義(ポピュリズム)は拒否できない趨勢になっています。そして客観的な基準や絶対的な権

威が排撃されて自分勝手に行うことを美德に扱う時代になりました。このような大衆迎合主義と多元主義の傾向がキリスト教会にも潮水のように押し寄せています。宗教多元主義者達は私的な利益や人の称賛と呼応を得るために福音を混雑にして他の福音を伝えることもあります。聖書にこのような人に対する呪いが宣言されています。真理は妥協したり譲歩する性格のことではありません。さらに、神様が定められた救いの真理に対しては論難する余地がありません。聖書に記録された左右に曲がってはならないという御言葉を中庸の態度を取ることに理解しないようにすべきです。

一般的にヘラ哲学や儒教で話す中庸とはある事に対して過ぎたりあるいは足りなく行く極端に片寄らず、適当な中間を取ることを指します。聖書に言及された片寄らない態度はこれとは異なります。その基準が絶対的な神様の御言葉から離れて右や左に曲がらないことを言います。

油断して警戒心が弛んでいる教会を非聖書的な教理や思想、この世の風潮がいかに蚕食して変質させるのかの卑近な例が「トロイの木馬」に関する話です。寛容と和合という名で非聖書的な神学、異端、偶像宗教、この世の文化と風俗を教会に受け入れてまるで戦利品を得たように振る舞うがこれはトロイの木馬になってしまいます。キリスト教の排他性は神様が定められたのです。神学者や牧師が定めたものではありません。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」これは創造主であり絶対主権者でおられる神様が命令なされた御言葉です。「わたしは道であり、

真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」これは救い主イエスが直接言われた御言葉です。「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」これは聖霊に感じられた使徒達が宣布した御言葉です。キリスト人は「聖書が行く所まで行って、聖書が止まる所まで止まる。」という原則に立って揺れ動かないようにすべきです。

教会の指導者が聖書的な原則がなかったり、誤ったり揺れ動くのが教会を危機に陥れます。教会の指導者は勿論、キリスト人は聖書に記録された御言葉による宇宙観、歴史観、国家観、教会観、人生観、価値観を持つべきです。この原則が揺れてはなりません。聖書の御言葉を信仰と生活の原則に扱わないと帆もなく櫓もなく風が吹く通りに行く船のようになってしまいます。キリスト人はこの世の風潮、宗教界の風潮通りに荒らされてはなりません。世論や大勢に押されて行ってもなりません。聖書に記録された原則に固く立たないと世俗、どん欲、異端、混合主義、宗教多元主義、宗教一致、宗教統合運動の流れに襲われるしかありません。教会とキリスト人は大勢に従うのではなく聖書的な原則という帆と櫓でこの全ての波を掻き分けて常に正路に進むべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## その名



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人類の歴史の中でいくら奇異で感動的で喜びの事件と良い知らせだとしてもイエスキリストの誕生の事件と知らせに匹敵することは消してありません。そして、その事件とその良い知らせの大事さと影響力にあってもそうです。イエスキリストの誕生の事件がこのように奇異で感動的で喜ぶ重大な知らせになる理由が今日の本文に記録されています。これは預言者イザヤがイエスが来られる 700 年前に聖霊に感動され神様から受け取った御言葉です。“一人のみどりごが私たちのために生まれた。一人の男の子が私たちに与えられた。／主権がその肩にあり、その名は／「驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君」と呼ばれる。”イエスがどんな方なのかについては様々な名前で形容しました。これに対して調べてみます。

その名は“奇妙者です”  
奇妙とは奇異で不思議であるという意味です。人の考えでは計り知れないほど奇異であることを意味します。イエスは奇妙者です。

### 初めは、イエス様のお誕生に関連された話は奇妙です。

同情女のマリアの体で聖霊で孕んだ事実がそうです。天地と満物を作られて時間と空間を越えて永遠な聖なる神様が人間の体でこの地に來られたのが奇異で言葉では表現できないほどです。イエスが生まれた直後、馬のぶねで寝かされるのも奇妙です。イエスが生まれた日、多くの天君、天使が野で羊を飼う牧童達に現れて救い主の誕生の喜ぶお知らせを伝えてくれました。この事も奇妙です。東方博士達が星の導かれてベツレヘムに行って馬のぶねに寝かせている赤ちゃんのイエス様に敬拝を捧げて黄金、乳香、没薬を捧げて夢には神様の指示を受けて他の道で自分の国に帰りました。イエス様の誕生に関する話は全てが奇妙です。

### 二番目は、イエス様の生涯も奇妙です。

イエス様が公的生涯を始めながら初めて行った奇跡は婚姻の家で水がぶどう酒になる奇跡を行って宴会の家の疑義を解決して下さった事件です。イエス様は病気になる者と悪霊に取りつかれた者を治しました。荒野で奇跡を行って餅五つと魚二匹で 5 千人を満腹させました。波風によって恐れる弟子達のため水の上に歩いてきて波風に命令して静まりました。死んだ者を生かしました。

### 三番目、イエス様の死も奇妙です。

イエス様は自分の死を何回も予告しました。まるでイエス様は大祭司長の群れに連れられカヤバに庭に連れて行かれて審問を受けた後、ピラトの官衙の庭でつれられ裁判を受けました。ローマ軍人達がイエス様の頭に冠をかぶらせてとげに刺され地を流しました。彼らはイエス様を鞭で打ちました。罪がなかった方がこのような苦難を受けて驚いて奇異なことです。そして、イエス様は十字架を背負って丘の上に行かれて十字架に両手と両足を釘を打たれました。イエス様は十字架で血を流しながら苦痛を受けながら死なれました。その時、聖殿では聖所の幕が上から、下までちぎれていました。正午から午後 3 時まで光を失って全ての地が暗がりでした。地がゆれ庭が分けられお墓も開かれて死んだ生徒が多く立ち上がり、市内にはいる驚くで奇異なことが起こりました。

### 四番目、イエス様の死体が安置されたお墓の入り口は多きい石で封印した後、ローマ軍人達が守っていました。

それにも関わらず、イエス様は予告したとおりに死んだ後、三日ぶりに弟子達に現れて慰めてくださり、落胆してエンマオに降りて行く弟子達に現れました。復活したイエス様を目撃したその弟子達はすぐ、エルサレムに帰って来ました。復活したイエス様は 40 日間、多様な時間と場所と人々に現れてイエス様が生きておられるのを見せてくださって、橄欖山で五百くらいの弟子達が見る中で天に召されました。イエス様の誕生と生涯と死と復活と昇天は全て驚いて奇異です。イエス様は真で奇妙者でございませう。誰でも奇妙者であるイエスキリストを救い主として受け入れると驚いて喜び溢れる人生になります。罪の赦され命を得て神様の子供になります。イエス様のなで祈ると神様が時によって助けてくださる恵を下され、最善に答えてくださいます。聖霊様が来られ、聖徒達を教えて導いてくださり慰めて治療してくださいます。死の日を迎える時に我が人々は天使達に樂園に入るようになります。そして、いつかは私たちの肉体が復活されるようになります。イエスキリストの栄光であるからだと形体のように変化され主と共に永遠に生きるようになります。このようにイエス様を信じる人は驚嘆たる人生です。

その名は“力ある神”です。

“力ある神”とは人を助けて知恵を与える人、助言者、相談者という意味を持っています。イエス様は人生の一番重大な問題に題する“力ある神”になり、人生に地へを教えてください力ある神です。イエス様が教える御言葉の通りに生きると必ず成功的な人生になります。三位一体の神様の保証して下さる成功です。イエス様が約束して“私は父にお願いしよう。父はもうひとりの弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。かの日には、私が父の内におり、あなたがたが私の内におり、私があなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。(ヨハネの福音書 14:16, 20) としました。昇天したイエス様が聖徒のため他の助ける方の聖霊様を送って下さっていつも共にして下さいます。助ける者というのは相談者、助ける者、慰める者、策士という意味があります。

その名は“全能なる神様”です。

イエス様は聖子の神様として人間の体でこの世に來られた方です。なぜ、神様が人で來なければならなかったのですか。罪人を救う方法はこれしかなかったからです。世でいくら素晴らしい人であってもその中でも罪人の中で一つです。

罪人は他の人との罪を贖うことができなので罪がない神様の息子のイエス様が人に來られ罪人を贖って下さったのです。生誕節の喜びと感激は神様が罪人を救うため人としてこの世に來られたという驚く事実によるのです。カブリエルの天使が“見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。／その名はインマヌエルと呼ばれる。”これは、「神は私たちと共におられる」という意味である。”(マタイの福音書 1:23)と言われました。

その名は“永遠の父”です。

イエス様が、この世に來られるのではじめて人は神様を父として、知るようになりしました。私達はイエス様を通して、父なる神様を知り、信じ仕えるようになりしました。私たちが神様に向けて“アバ父よ”と呼ぶように教えた方が、イエス様でした。誰でもイエスキリストを信じ受け入れるならその瞬間から、自然に神様に向けて“父なる神様”と呼ぶようになります。

“イエスは言われた。「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことができない。あなたがたが私を知っているなら、私の父をも知るであろう。いや、今、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのだ。」(ヨハネによる福音書 14:6, 7)と誓いました。この御言葉を聞いてフィリポが“主よ、私たちに御父をお示してください。”と要求したらイエス様がお答えくださいました。“「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、私が分かっているのか。私を見た者は、父を見たのだ。なぜ、『私たちに御父をお示してください』と言うのか。私が父の内におり、父が私の内におられることを、信じないのか。私があなたがたに言う言葉は、勝手に話しているのではない。父が私の内におり、その業を行っておられるのである。”(ヨハネの福音書 14:9, 10)と言われました。父なる神様はイエス様と同じ本質と権能と愛を持った方です。

その名は“平和の君”です。

イエス様は平和の創始者であり平和の授与者です。イエス様が私達に下さる平和の中で一番になる平和は神様との平和です。罪を犯した人生は神様と敵になった席にいますので神様の前に進めません。しかし、イエス様はこの地に來られ和合のいけにえになって神様と敵になった私達を神様の子供とになるようにして、神様と共に平和を享受するようにして下さいます。また、イエス様は私たちがこの地で生きる間、心に平和を享受するようにして下さいます。イエス様がこのように話しました。“私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。私達はイエス様がどなたであるかを軽視した本文の御言葉を調べてみます。”

“一人のみどりごが私たちに与えられた。一人の男の子が私たちに与えられた。／主権がその肩にあり、その名は／「驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君」と呼ばれる。”聖徒皆さんは好み言葉を真に信仰で感謝し感激する心で生誕をお迎えください。